

SDGs新聞

三菱地所レジデンス株式会社

鳥やチョウの「休む場所」って？

SDGsラジオを読んでみよう！

みなさんは、鳥がどれくらい遠くまで飛べるか知っていますか？

たとえばカモのように、休まずに何千キロも飛べる鳥たちもありますが、キツツキの「コゲラ」は200メートルくらいしか飛べません。

遠くまで飛べない鳥たちは、「すきな木」を見つけて、休みながら移動しています。

だから、すきな木や、まとまった緑の場所がところどころないと、いろんなところに行けないのです。

そこで、マンションなどの住まいをつくる会社「三菱地所レジデンス」では、生きものたちのすむ場所を守るために「バイオネットイニシアチブ」という取り組みを進めています。

マンションの周りに、鳥たちがすきな「地域になじみのある木」を植えることで、鳥たちの「休む場所」をつくっているんです。

そうすることで、近くの公園や次の緑の場所に飛んでいきやすくなるんですよ。

みなさんは、鳥たちがすきな木を知っていますか？おうちの近くにあるか、調べてみましょう！

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



画像参照：長い距離を移動する渡り鳥とコゲラ

まちの中には、ハトやスズメ、カラス、カモなど、さまざまな鳥がいます。そんな鳥たちは、種類によって一度に飛べる長さがちがいます。たとえば、カモは渡り鳥なので、休まずに何千キロも飛べますが、都市にすんでいるキツツキの仲間の「コゲラ」は一度に200メートルくらいしか飛べないため、すきな木やすぐしやすい木で休みながら少しずつ移動します。つまり、飛べる長さが短い鳥たちが移動しながらくらすためには、ひと休みできる「鳥たちがすきな木や、まとまった大きさの緑」が必要です。そして、こうした鳥たちがうまく移動できなくなると、鳥たちがいなくなってしまう、さらには「生態系」のバランスがくずれてしまうのです。



画像参照：三菱地所レジデンスが手がけるマンション

「ザ・パークハウス」による、緑のネットワークの図（三菱地所レジデンスHPより）

そこで、マンションなどの住まいをつくる会社「三菱地所レジデンス」では、人と自然がいっしょにくらしていくために、「バイオネットイニシアチブ（BIO NET INITIATIVE）」という取り組みを行っています。この取り組みのひとつが、マンションの周りに植える木や草花に、その地域になじみのある種類のものを選ぶことです。これによって、近くの森や林、公園などにすんでいる鳥たちが休める場所が生まれ、すきな場所に移動しやすくなります。また、周りの環境にあわせて植える木や草花を選ぶことは、地域の生きものや植物の生態系を守ることにもつながります。都市は緑が少なく、生きものにとってすみにくい環境であることから、「バイオネットイニシアチブ」のような自然のことを考えたまちづくりが、今いろんな場所で進められています。

キーワード

渡り鳥

季節によって、あたたかい場所やすぐしやすい場所をもとめて、長い距離を行き来する鳥のことです。カモやツバメがその仲間です。

コゲラ

からだの長さが15cmくらいのキツツキの仲間です。北海道から沖縄まで、日本のいろんなところにすんでいます。

生態系

生きものや植物などが、食べたり食べられたりしながら、おたがいにかかわり合っていっしょに生きている、自然のつながりのことです。

対象ゴール



みなさんにできること！

おうちの周りにはどんな木が生えていて、どんな種類の鳥がいるか調べてみましょう。

おさらい

- 一度に何千キロも飛べる鳥もいれば、200メートルくらいしか飛べない鳥もいる。
- 飛べる距離が短い鳥は、すきな木やすぐしやすい木で休みながら少しずつ移動する。
- 三菱地所レジデンスでは、「バイオネットイニシアチブ」という取り組みで、自然のことも考えたまちづくりを進めている。

メモ



SDGs ラジオ